

令和8年度 芸術科

教科	芸術	科目	音楽Ⅲ	単位数	2単位	年次	3年次
使用教科書	Joy of Music (教育芸術社)						
副教材等	MUSIC NOTE						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

音楽Ⅰ、音楽Ⅱを通してつけた力を確認しながら、「さらによいものを目指す」という音楽表現の強い向上心を持って欲しいと思っています。器楽、声楽において個人の演奏技術の向上を目指し、器楽合奏、合唱では、共同で音楽を作り上げる高い創造性を持って取り組んでください。また、鑑賞では総合的芸術作品の鑑賞を通して、生涯にわたって音楽を愛好する心情や態度を1、2年以上に培って欲しいです。

2 学習の到達目標

【知識及び技能】

音楽に関する専門的で幅広く多様な内容について理解を深めるとともに、表現意図を音楽で表すために必要な技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

音楽に関する専門的な知識や技能を総合的に働かせ、音楽の表現内容を解釈したり音楽の文化的価値などについて考えたりし、表現意図を明確にもったり、音楽や演奏の価値を見いだして鑑賞したりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】

主体的に音楽に関する専門的な学習に取り組み、感性を磨き、音楽文化の継承、発展、創造に寄与する態度を養う。

3 評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な知識や歌唱、器楽、創作の技術を身に付け、創造的に表している。	音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、思考しながら、歌唱、器楽、創作の音楽表現を工夫し、どのように歌うか、演奏するか、音楽をつくるかについて表現意図を持っている	音楽や音楽文化に関心を持ち、歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習に主体的に取り組もうとする。
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	発声の発展	<ul style="list-style-type: none"> 発声方法をさらに深く学習することによって、美しい発声をもって自分の感情を表現するだけの技術を身につける。 ドイツ歌曲、イタリア歌曲など外国語の芸術的な歌曲の豊かな表現をめざす。 	<p>a: 外国語の歌曲を曲種応じて発声で芸術的な豊かな表現を主体的に取り組んでいる。</p> <p>b: 音楽を形作っている要素を理解して、音楽表現に意欲的につなげられている。</p> <p>c: 表現したいことを伝えるための歌唱の技能としてベルカント唱法を取り入れ豊かな発声で表現できている。</p>	演奏の聴取	観察	実技テスト
	器楽(鍵盤楽器)	<ul style="list-style-type: none"> 鍵盤楽器の演奏技術の習得、演奏発表。「エリーゼのために」を課題とする。また、それぞれの技術の程度に合わせて、課題を設定して鍵盤楽器に取り組む。 	<p>a: 鍵盤楽器の基本的な技術の習得から、意欲的に練習に取り組めること。</p> <p>b: 音楽を形作っている楽曲の要素を理解して、音楽表現に意欲的につなげられている。</p> <p>c: 演奏技術の向上から、それぞれの楽曲の芸術的な表現をめざして主体的に取り組める。</p>	演奏の聴取	観察	実技テスト
2	総合的な鑑賞	歌劇「カルメン」を鑑賞教材に用いて、器楽、声楽など総合的な芸術の鑑賞としての観点で行う。	<p>a: 声楽、器楽、美術、無頼装置など総合的な芸術として関心を持ち、主体的に鑑賞に取り組む</p> <p>b: 音楽を形作っている要素を理解し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気等を感じながら、音楽に対する理解を深める。</p> <p>c: 西洋音楽史上の功績などについて、発表の内容を聴き取り、芸術的な表現について主体的に積極的鑑賞に取り組む。</p>	レポート発表 ペーパーテスト	Google スライド	レポート発表

	音楽会準備	3学期に卒業音楽会を3年間のまとめとして行う。 そのための曲目選び、練習の時間にあてる。	a: 意欲的に練習に取り組めること。 b: 自分が演奏する曲について楽曲の要素を理解して、音楽表現に意欲的につながられている。 c: 発表にむけて、楽曲の芸術的な表現をめざして主体的に取り組める。	演奏の聴取	観察	実技テスト
3	創作	卒業歌曲・器楽曲を作る。 コード進行、形式を理解する。 楽譜整符ソフト(フィナーレ)を用いて、音の確認を行い、出版風にまとめる。	a: 作曲に必要な音楽理論の基本知識を確認して、関心や意欲を持って作曲に取り組める。 b: 自作の曲について、課題を設定しながら、内容を充実させていくこと。 c: 自作の曲の表現内容について、楽譜整符ソフト(フィナーレ)を用いて確認して、芸術的な内容を深めていく。	観察	作品	作品の演奏の聴取
	発表	卒業音楽会の実施 公開で放課後行う。	a: 3年間のまとめとして、技術的にも音楽的にも豊かに表現のために意欲的に取り組んでいる。 b: 曲の内容に応じて、芸術的な豊かな表現を目指している。 c: 公開での演奏の機会で、自分演奏が聴いている人に伝えられるように本番の演奏を成功させられる。	演奏の聴取	観察	実技テスト

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度